





3年	整数のたし算・ひき算	暗算による2位数どうしのひき算
【ねらい】 暗算による2位数どうしの減法の考え方を式や図に表現し、説明することができる。		


課題	<p>53円のアイスと26円のガムではどちらが何円高いですか。暗算で計算しましょう。</p> <p>式 $53 - 26$</p>	<p>たし算の暗算は位に分けて考えましたね。</p> <p>ひき算の暗算のしかたを考えよう。</p> 
----	--	--

既習事項	<p>① 53を50と3に分けて考えようかな。</p> 	<p>② 26を20と6に分けてみようかな。</p> 	<p>③ 26をだいたい30として考えてみよう。</p> 
------	---	--	--

自力解決	<p>① ひかれる数を分ける考え方</p> $\begin{array}{r} 53 - 26 \\ \swarrow \searrow \\ 50 \quad 3 \end{array}$ <p>$50 - 26 = 24$ $24 + 3 = 27$ 答え アイスが27円高い</p>	指導上の留意点
	<p>② ひく数を分ける考え方</p> $\begin{array}{r} 53 - 26 \\ \swarrow \searrow \\ 20 \quad 6 \end{array}$ <p>$53 - 20 = 33$ $33 - 6 = 27$ 答え アイスが27円高い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分の考えをノートに書かせる際には、ノートの隅に小さく書かせずに、はっきりすっきりと書かせる。加数、被加数を分解してノートに書く際には、二つの数字がくっつかないように書くことも机間指導していく。
	<p>③ ひく数をだいたいの数にする考え方</p> $\begin{array}{r} 53 - 26 \\ \downarrow \\ 30 \end{array}$ <p>$53 - 30 = 23$ $23 + 4 = 27$ 答え アイスが27円高い</p>	

1 多様な考え方で解ける算数の楽しさを味わわせる。

どの考え方も、きりのよい数字にして計算していますね。計算しやすく工夫していますね。



2 それぞれの考え方に名前をつける。



「ひかれる数分解法」というのはどうかな。

どうして、そのような名前を考えたのですか。



ひかれる数の53を、きりのよい数字の50と残りの3に分けたからです。

なるほど、わられる数をきりのよい50にすると $50 - 26$ で簡単に計算できるようになりますね。



じゃあ、私のは「ひく数分解法」にします。なぜかという、ひく数の26を十の位の20と一の位の6に分けて計算する考え方からです。 $53 - 20 = 33$ は簡単です。後は、 $33 - 6 = 27$ になります。



私の考え方に名前を付けるとしたら、「ひく数だいたい方法」です。ひく数の26をだいたいのすっきりした数字の30にみて考えるのがポイントです。 $53 - 30 = 23$ になります。でも、本当のひく数は26なので、実際は4多く引いていることになります。なので、 $23 + 4$ をします。そして答えが27になります。

それぞれの考え方を分かりやすく表した、よい名前ですね。



3 学習をまとめる。

ひき算の暗算は、どのようにして考えればできますか。算数の言葉を使ってまとめましょう。



ひかれる数やひく数を位で分けたり、きりのよい数にしたりすれば簡単に暗算ができます。

○ 適用問題に取り組む。(教科書や単元問題ライブラリー)

- (1) チャレンジ問題
 ① $51 - 35$ ② $95 - 49$

- (2) スーパーチャレンジ問題 (念頭で暗算)
 ① $32 - 14$ ② $74 - 29$

●なんとなくといった数感覚ではなく、根拠をもとに考えさせていく。そこで、「なぜ引かれる数を50と3に分けたの」、「どうして26を30とみたの」とか問い、きりのよい数字にして計算しやすくしていることに気付かせていく。

●まずは、補助発問「ひき算の暗算にはどのような考え方があったかな」と問いかけて「ひく数分解法」「だいたい」などの言葉から学習を振り返らせる。次に、主発問「ひき算の暗算の仕方を算数の言葉を使ってまとめていこう」で、「位で分ける、だいたいの数」を使って学習をまとめさせる。

●適用問題の最後には、念頭での暗算に取り組ませ、生活場面でも使える実感を味わわせたい。